

4 地球温暖化に対してできること

(6) 災害に備える (適応策)

社会…日本の地域的
特色と地域区
分
理科…自然と人間
保健…傷害の防止に
ついて
家庭…衣食住の生活

【ハザードマップ】

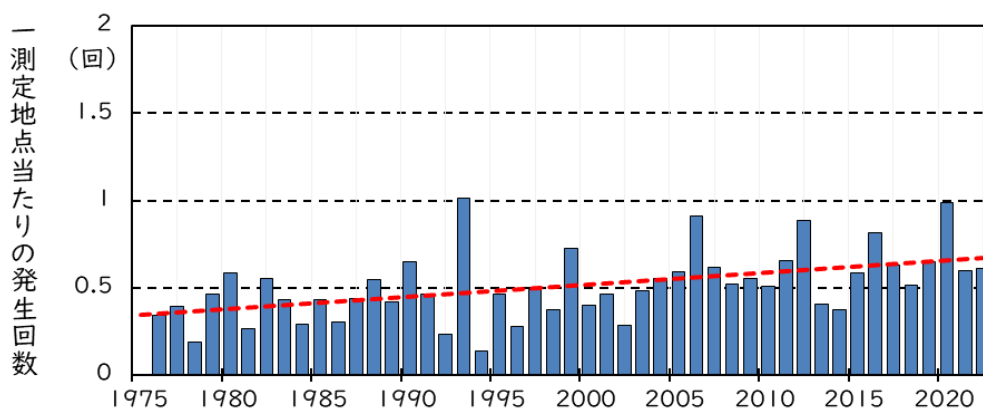
・洪水などの自然災害による被害の可能性や、避難場所などを示した地図。
・都道府県や市町村などにより、作成・配布されている。

地球温暖化で気温が高くなり、大気中の水蒸気が増えると、洪水や台風などの自然災害がさらに増加することが心配されています。

実際に、近年は記録的な大雨が増えており、大きな災害が発生する危険性が高まっています。過去の経験にとらわれずに、ハザードマップなどに想定された大きな自然災害に備え、自分の身を守ることが大切です。

■ 九州・山口県における1時間降水量50mm以上の年間発生回数の経年変化(1976~2022年)*1

※観測値を1測定地点当たりの回数に換算、赤い点線は変化傾向。



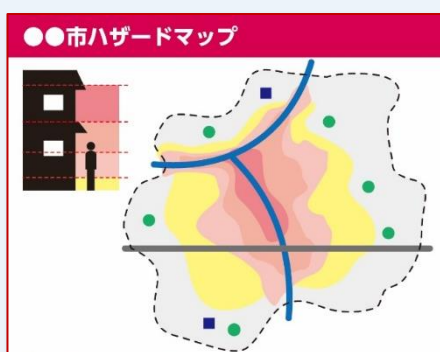
<ハザードマップを確認してみよう>



自分が住む自治体のハザードマップを確認し、家や学校のある地域で起こりそうな自然災害(洪水、土砂崩れ)を確認しよう。また、地球温暖化による影響を考え、危険性が増す災害には何があるか話し合おう。

(確認するポイント)

- ・避難場所や避難所に指定されている場所
- ・各自の避難ルート(家から/学校から)
- ・危険な場所と対策
- ・地球温暖化による影響



● 避難場所	● 浸水深●m
■ 警察署	● 浸水深●m
	● 浸水深●m
	● 浸水深●m

*1 九州・山口県の気候変動監視レポート2022(福岡管区気象台)を基に作成

<実際に歩いて確認してみよう>



自宅から避難場所までのルートを実際に歩いて、確認してみよう。また、新しい発見があれば、クラスで発表して、情報を共有しよう。

(確認のポイント)

- ・危険物や危険箇所（ブロック塀、看板、がけなど）はないか。
- ・他の避難経路はあるか。



<災害で必要なものを備えよう>



福岡県防災ハンドブック*2を参考に、災害時に必要となる備蓄品を調べ、家族に必要な量を計算してみよう。また、実際に備えたものにはチェックを入れよう。



防災ハンドブック*2

分類	備えるもの	必要数量	備える数量
食料・水	<input checked="" type="checkbox"/> 無洗米	105食分（5人×7日）	10kg
	<input type="checkbox"/> ○○	○食分（○人数×○日分）	○○食分
	<input type="checkbox"/>		
その他	<input type="checkbox"/> 電池		
	<input type="checkbox"/>		
	<input type="checkbox"/>		

■ 災害時に必要となる備蓄品の例

●食料

お米やアルファ米、レトルト食品や缶詰、カップ麺などを最低3日分、できれば1週間分を準備。



●飲料水

水（飲料と煮炊き分）は大人1人1日あたり3リットルが目安。水の配給を受けるためのポリ容器、給水袋も必要になる。

●燃料

卓上タイプのカセットコンロや固形燃料を用意。予備のカセットガスなどは多めに保管しておきたい。



●衣類

下着や上着、毛布など。季節や地域の状況によって必要な物、数量を決める。

●工具類

救助活動の際などに使用。スコップやバール、ジャッキ、ノコギリ、ペンチ、ロープ、ハンマー、カッター など。

●その他

皿・コップなどの食器類、ラップ、歯磨きセットやせっけん・ドライシャンプーなど衛生用品、ランタン・ろうそくなどの灯り、新聞紙・段ボール・布製ガムテープ、ほうきとちりとり など。

【備蓄品】

- ・被災後の数日を乗り切るための食料など。
- ・災害後は、電気・ガス・水道などが止まることを想定して、少なくとも3日以上を備えておくとうい。

※感染症対策として、マスク・アルコール消毒液・体温計も準備しておきましょう。

*2 福岡県防災ハンドブック（福岡県）

※12ページに備蓄品のチェックリストが用意されています。